

2023年12月25日

苫小牧市長 岩倉博文 様

ねこの隠れ里
代表 藤田 藍

猫の保護活動に関する要望書

私は「ねこの隠れ里」という団体を立ち上げ、飼い主のいない猫を保護し、新しい飼い主を探す保護活動を行っています。苫小牧市内で猫に関する問題が深刻化していることから、市にも適切に対応していただきたく、要望させていただきます。

まず、現状をお伝えいたします。最近、飼い主の入院や施設入所、疾病、死亡などの際、飼い猫が取り残され、ねこの隠れ里に相談が寄せられるケースが増えています。中でも、生活保護受給者や高齢者などが大半を占めています。このような人の多くは頼れる家族がいない、いわゆる身寄りのない人や、家族がいても猫を飼えない、飼いたくないという状態です。

また、地域内の野良猫問題も切迫しています。猫は生後4か月を過ぎたころから繁殖可能で、1回に1～8匹の子猫を出産します。年間で最大3回程度出産することから猫算式に増加し、1匹の猫から1年間で50～100匹まで増える可能性もあります。市内でも避妊・去勢をせずに野良猫に餌付けをする人が後を絶たず、栄養状態が良くなった野良猫が地域内であつという間に繁殖する事例が多発しています。当会では野良猫がこれ以上増えないよう、捕獲して避妊・去勢手術を行っております。野良猫に餌を与えないという事だけでは何も解決しません。野良猫の避妊・去勢手術が必要不可欠です。

しかし、当会がこれらに対応するに当たり、必要な費用を支払えない依頼主も少なくありません。困っている猫も人も見過ごすわけにいかず、当会が費用負担をしているのが現状です。当会では東開町の一軒家を借りてシェルターを運営しており、ここでは現在150頭の猫を保護しています。さらに代表の自宅でも病気や高齢の猫を手厚くケアしています。

計約200頭の猫のえさやトイレの砂などの消耗品代や医療費など、家賃を除いた経費は年間900万円に上ります。市民らの寄付や依頼主の保護費用などでまかなっていますが、当会が活動を始めてからの12年間、常に赤字が続いています。足りない分は代表個人の家計からまかなっておりますが、その額は年々増え続けております。

猫を取り巻く問題は動物愛護のみならず、住民福祉の視点からも官民連携で取り組むべき重大な地域課題であります。だれもが安心して暮らし続けられる「ふくしのまちづくり」の実現を進めるため、別紙にて要望項目を述べさせていただきます。

記

- ① シェルター運営費用の助成
- ② 飼い主のいない野良猫の避妊・去勢の手術費用の助成
- ③ 飼い主のいない野良猫の避妊・去勢手術等を行う際の地域住民への周知や説明等の協力
- ④ 高齢者や障害者など、何らかの支援を受けている人が猫を飼えなくなった場合を想定し、多職種で事前に対応策を考える仕組みづくり
- ⑤ ④の仕組みを円滑に運用するため、関係者間での連携強化と情報共有に対する働き掛け
- ⑥ 猫の置き去りや飼育放棄のリスクの早期発見、未然防止の仕組みづくり
- ⑦ 新しい飼い主を探す譲渡活動への協力
- ⑧ 「苫小牧市犬と猫と快適に暮らすためのガイドライン」の見直し、市民への周知徹底

以上